創立140周年記念式典

9月16日の創立記念日に挙行された140周年記念式典。新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、規模を縮小して実施した。出席者はこれまでの長き歩みを振り返りつつ、さらなる未来へと思いをはせた。

式典では「専修大学の歴史」が上映された

式辞　学校法人専修大学理事長　日髙　義博

創立150年に向け大学改革を推進

本日、専修大学は、創立140周年を迎えました。新型コロナウイルス感染症拡大のため、卒業式・学位記授与式及び入学式は断念せざるを得ませんでした。新型コロナウイルス感染症は未だ収束しませんが、創立140周年記念式典は、創立150年に繋ぐべく、参加人数を縮小し時間も短縮した上、挙行する決断を致しました。創立140年記念事業に支援・ご協力いただいた方々と共に祝いたいと考えておりましたが、規模を縮小せざるを得なかったことは、誠に残念であります。本日、式典にご臨席いただきました皆様には、心からお礼申し上げます。

創立130年から創立150年の期間は、本学では第5世代に当たり、「大学改革の時代」です。創立130年の節目においては、2020年に「大学全入時代」が到来することから、大学改革をいかに行うかを考えました。入試の志願者数5万人を目標に入試戦略を練り直し、学部学科の改組・新設を計画し、それに並行してキャンパス整備を行いました。昨年度も今年度も、志願者数は当初の目標を超えました。また学部改革についても矢野建一前学長、佐々木重人学長がリーダーシップを発揮され、現在では、8学部20学科という陣容になりました。入学定員の管理が厳格化され、かつ東京23区内への学部移転・新設が困難となる中で、大学改革の構想を実現することができました。

キャンパス整備も、オール専修の力の結集により、すべて実現することができました。東日本大震災で使用不可能となった神田キャンパス5号館、生田キャンパス2号館・3号館の建て替えに加え、生田キャンパスでは国際交流会館、新体育寮の建設を行いました。神田キャンパスでは9号館に続き140年記念館が竣工。先日初めて1年次生が校舎に入り、ようやく学び舎として起動しました。

来たるべき創立150年までの10年間も、なお「大学改革の時代」にあります。もっとも、2040年問題を見据えた施策が必要です。18歳人口は05年の約137万人に対し40年には約88万人に減少し、大学進学者数は約51万人と予測されています。これからの20年間は、まさに生き残りを懸けた大学間競争になります。適正規模を見据えた更なる学部学科の再編・融合に迫られることになりましょう。しかも、第4次産業革命、Society5・0といわれる時代に突入し、超スマート社会に求められる人材の育成が課題となります。

大学といえども、社会構造の変動に無関係ではありません。しかし、大学教育の本質的な部分、学問の基礎にある価値体系を捨てるべきではありません。本学は、建学の精神を担った有為な人材を社会に輩出してきました。いかなる時代にあっても、人間性豊かな人物、信義と礼節をわきまえた倫理観のある人物が社会を動かします。創立者たちのサムライ・スピリッツがわれら専修人に息づいていればこそ、わが国の高等教育に140年の歴史と伝統を刻むことができたのです。

本学では、21世紀ビジョンとして「社会知性の開発」を掲げ、教育・研究に取り組んでいます。創立150年に向けても、「社会知性の開発」の実現を目指して、大学改革に取り組むことに変わりはありません。これからの課題は、大学進学者数が減少するなかにあって、いかに大学の教育・研究の質を高め、いかに知の発信を行い、私学としての自律性と独自性を確保するかにあります。全国型の大学であり続けるためには、地方からの入学者を増やす戦略も必要であり、社会で活躍している卒業生の姿をより一層発信すべきです。箱根駅伝、野球、ラグビーなど、カレッジスポーツも一層強化しなければなりません。司法試験、公認会計士試験、国家公務員採用総合職試験などの難関試験の合格者数の増加は、大学力を測る一つの指標にもなっています。文武両道の施策を講じていかなければなりません。

これからの大きな事業の一つとして、神田本館の建て替えがあります。多額の建設費用を要することから、既に建設資金の組み入れを始めました。今般のコロナ禍のなかで、教職員の大学教育に対する熱意を実感しましたが、この熱意を支える職場環境の整備にも尽力しなければなりません。本学の存続・発展のために、大学力を強化し、財政基盤をより一層強固なものにしていくことを肝に銘じ、理事長の式辞と致します。

来賓祝辞

新澤千佳子　育友会長

新型コロナウイルス感染症拡大により生活が一変し、オンライン授業に学生も父母も戸惑いました。しかしこんな時だからこそ育友会は大学と父母の懸け橋になるべく、ウェブ支部懇談会など新しい挑戦をしました。これからも育友会はオール専修の一員として、大学と共に困難を乗り越え、新しい歴史を作るべく歩んでいきたいと思います。

相馬光之氏（創立者・相馬永胤ひ孫、相馬勝夫元学長四男）

若い四人の創立者の協力と絆の力を中心にして「専修学校」創立を成し遂げたことは、今思うと奇跡のように感じます。専修大学は長い歴史の中で、創立者の協力と絆の力を受け継いで、いくつもの困難を乗り越えてきました。今般のコロナ禍でも、専修大学が人々を支える力を発揮されることを期待しています。

小宮多喜次　校友会長

私は仕事をしながら学ぶため、たまたま専修大学に入りました。会場にいる皆さんもさまざまな思いを抱いて専修大学を選んだことと思います が、専修大学に来てよかったと、私自身心から思っています。これからも皆さんと共に、専修大学を守り、さらに素晴らしい大学を築いていきたいと思います。

髙山肇　千代田区商店街連合会長

書籍文化の集積地である神田神保町と大学の歴史は千代田区の誇り。これからの千代田区を考えるにあたって、大学と地域、学生の皆さんが共に文化を育む街を提案していきたい。コロナ禍で、街も試練の中にあります。しかし先人がそうであったように、互いに力と知恵を出し合い、乗り越えていきたいと考えます。

式辞　専修大学長　佐々木　重人

令和版「学校をつくろう」に挑む

私にとって、本日の創立140周年の意義は、その記念事業の陣頭指揮を執っているさなかに急逝された前学長の矢野建一先生が、今日の日を目指して掲げておられた目標を、確実に引き継ぎ実現させる日に当たります。

それは4年以上前のことですが、矢野先生は、すでに神田キャンパスや生田キャンパスが創立140周年を迎える姿を明確にイメージできるほどに具体的な事業案を策定し、法人側とも共有しておられました。私の学長就任以降、ここまでの4年間の作業は、国際コミュニケーション学部の創設、商学部の神田移転の準備、二部3学部の学生募集停止など、大きな変化を伴い、学生からの期待と戸惑いも同時に感じることがありましたが、教職員、校友会、育友会など多くの方から力強いサポートを得て、結果として学内外にあった諸課題を解決しながら、順調に進めてこられたと思っております。

これで、なんとか矢野先生に計画完了との報告ができると感じております。

今回の記念事業の肝は、学部・学科の新設・改組など「社会知性の開発」の「見える化」を実行しながら、新しい時代の教育・研究のあり方を構築すること、そしてキャンパスのある地元地域との関係を一層深化させること、さらに校舎の新築や建て替えを伴いながら、生田と神田、両キャンパスをより美しく造り込むことにありました。ただ建物を作ればいいわけではない。特徴のある雰囲気づくりを140周年記念事業の中で成し遂げたいと考えていた次第です。

来る2030年の創立150周年に向けた道筋は、ウィズコロナからアフターコロナの時代のなかを歩むことになります。特に今年の1年次生、そして来年度以降の入学者は、これまでの大学生とは異なるスタイルの学びの世界を経験するはずです。

本学は、これを地球的規模で生じる教育・研究上のパラダイムシフトと捉え、大学教育・研究で新たにできることや、行わなければならないことを見定めて一層精進し、まさに令和版の「学校をつくろう」に取り組もうと思います。これから150周年に向け、我々は何をしないといけないか常に肝に銘じ、大学の発展にまい進したいと考えています。

今後とも皆様からの変わらぬご指導とご鞭撻をお願い申し上げて、学長の式辞といたします。本日はありがとうございました。

記念誌を発行

創立140周年記念誌『専修大学140年――大学改革の10年――』＝写真＝が発行された。最近10年間に行ったキャンパス整備・学部学科再編などの大学改革を中心に紹介。学生・卒業生の活躍も多数掲載している。

日髙義博理事長と佐々木重人学長が対談し、大学改革の歩みや今般の新型コロナウイルス感染症対策を振り返るとともに、創立150年に向けての決意を語った。

A4判32㌻。希望者には無償で配布する（送料250円が必要）。送料分の切手を同封の上、氏名、連絡先を明記して〒101―8425　東京都千代田区神田神保町3―8専修大学大学史資料室に郵送。

問☎03・3265・5879

神田10号館　インドアビューで公開

神田キャンパス10号館（140年記念館）の内部をGoogleインドアビューで撮影し、創立140周年を迎えた9月16日から本学ホームページで公開している（QRコード参照）。

Googleマップのインドアビューは、建物内をストリートビューと同様に360度視点を切り替えながら閲覧できる。

神田10号館では1階から16階まで全フロア合計227カ所を撮影。それらをつなぎ合わせたことで校舎内を360度確認できる。

神田10号館は今春完成したが、新型コロナウイルス感染症の影響により入構が制限されていた。今回のインドアビュー公開により、在学生や受験生に新校舎を身近に感じてもらうことができる。

インドアビューの1画面

募金芳名プレート

専修大学創立140周年記念事業募金「チェア募金」にご寄付いただいた方々の芳名を記したプレートを、神田10号館各教室の入り口に設置している＝写真右。また、校舎周辺に植えられた記念樹にも、同記念事業募金「記念樹募金」にご寄付いただいた方々の芳名を刻んだ銘板を設置した＝写真左。

なお、チェア募金は「専修大学・石巻専修大学『社会知性（Socio-intelligence）の開発』推進募金」の一つとして、現在も募集している。

校歌独唱　ボーカリスト　宮田悟志さん（平20文）

校歌を一人で歌う機会はないので緊張しました。専修大学時代に所属していた野球部では、1年次生が先輩に指導を受けながら校歌を練習するのですが、その時の緊張感がよみがえりました。記念すべき式典での独唱なので、これからも前進していくよう、さらに広がっていくようにとの思いを込めて歌いました。後輩の皆さんも機会があれば、校歌に親しんでほしいですね。（談）

謝辞　専務理事　松木健一

「私大を取り巻く環境は厳しいが、21世紀ビジョンである『社会知性の開発』の実現にまい進していきます」と謝辞を述べた。

司会　落語家　桂小文治さん（昭55商）

軽妙な語り口で式を進行した。